

# 幼稚園教育學講義

——神戸に於ける講演——

文學博士 谷 本 富

## 第三章 モンテツソリー

### の方法に就て

以上今日まで説き來つたフレーベル氏竝にロバートオーウエン氏の教育的立脚地を一言で云つたならば、氏は何處迄も哲學的基礎で而も基督教主義的根據であると看られ、オーウエン氏は經濟學的根據をもつて立つて居たと云へる。然らば今からお話しやうとするモンテツソリー氏はどうかといへば、彼は醫學を根據として立つて居るのである。彼は本年五十七八歳の婦人で、イタリーのドクターである。一千九百年頃ローマ大學の精神病院の助手であつたため、低能兒の教育に興味を持つ様に成り、同時に貧民の子供の教育の爲めにも

大に力を注いで居た。それから一千九百七年に *Itari* と *Seguin* といふ兩大家の説を基として始めて *Casa dei bambini* 即ち英譯すると *House of Children* で「小兒の家」とも謂ふべきものが設立され、爾來その發展に盡力されて居る様な次第である。

其の特徴を列擧して見ると、次の様である。

一、人類學的測定 二、環境の測定 三、この二つを先驅として、さて進んでは先づ 三、訓練で、教育するより前に先づ躰をすることが必要であるといふことを云つて居る。

その訓練の原則とも謂ふべきものは二綱三領あつて、二綱とは第一自由、第二獨立であり、三領とは（一）清潔（是れはイタリーは實に不潔であるため

にかゝることをいつたのでもあらう)(二)簡單、  
(三)客觀的(物として具體的に見せること)でなければならぬ即ち實際生活と結びついて居なければならぬ。

訓練の次には 四、教育でそれは次様になる。

#### (一)筋肉の練習

單に體操をするのみでない。先づ歩くことより始まり、呼吸談話の筋肉運動の進むことが必要である。

そのため梯子に手摺をつけて登らす様なこともする。少し進めばマーチをさせる。次に進めば少し重い物を持たせて走らせる。これが今一層進めば教育的に秩序整然とやる。それは(イ)農業――物の培養をさせるので、自然物を愛することが主になる。

(ロ)手工――瓶を造らせること、何故なれば人類の初めは瓶を造つたものである。現に歴史上から見ても、此の瓶は昔はそれに水を入れ、頭のもの

せて運んだものである。希臘羅馬はさうであつた。

(ハ)體操――幼少の時から深呼吸の體操をさせること。これに依りて腺病質を治し、肺患を防ぐ効は少くない。

#### (二)智力

(イ)感覺――五官を悉く働かすこと。元來從來の教育上では、臭ひと味とをさげすんで居るが、それは貴族的であつて、今日の時代には適應しないのである。否この二の感覺の教育が眞に出來れば、眞のデモクラシーは出來るとまで云ふことが出來るのである。

#### (ロ)高尚なる智力

一つ一つの感覺から觀念を導き、それに名をつけること、これが高尚なる智力を伸ばす基である。而して又感覺と名稱と結合を重んじ、物體と名稱の結合が完全に出來て高尚なる知力の發達となる。

## (ハ)技術

讀書算術を教へること。

モ氏は書讀といつて居るつまり書くことが先で而も書くことは生理的のもので、讀むことは社會的のものである。と云つて居る。

蓋し書き方は筋肉運動に據るので、板に字が書いておつてそれを撫でさせ次に空中に書かせる。

又讀み方は始め言葉を教へるか又は一つ一つの綴りを教へるがよいか問題である。

さて次に硬さ軟さ重さ等を試練する而して之を實際の生活と結びつける。否一步を進めては、ボタンのかけ方や、あみあぐのくゝり方の如きことに付いても色々大略十通りの方法を練習することになつて居る。

掃除をさせること。これは我が國では問題になつて居る。

食事は學校でさせることになつて居る。特にイタリーの貧民の兒童等は朝食をせずに登校するか

ら温い汁の如きものを學校で與へることは近頃一般にある。

斯くモ氏の幼兒教育法については、色々具體的方法があつて一々詳説に暇ないが、それを一層精しく知らんとするには、夫の *montessori method* と云ふ普通のもの外に、最近英譯にも成つた *Advanced method* といつて千九百十四年版のものが最好適の書物であらう。

以上はモ氏の所説の大要だが、之れに對して批評した人は色々ある。就中カークバトリック氏の兒童心理學並に兒童教育學の立場から批評して居るのは大に參考に成る。即ちその著はせるものに *Montessori Examined* (1915) がある。其の要點を擧げて見ると次の様である。

一、モンテツハリとフロエベルと孰れがよいか。

モ氏の原則

(イ)教育は内面から發せねばならぬ。

(ロ)個別教育でなければならぬ。

この二ヶ條はフロエベル氏とても亦全く同一である。併しモ氏の理論は如何にも尤らしいが、彼の實際の方法は拙ない。つまり子供本位といつて居るが、餘りに無秩序であつてさわがしい故、これは良家庭、良社會、良國家には用ひられぬ。

## 二、自己教育

理屈はよいが之に對する反對が五つある。

(イ)機械的で無變化。

(ロ)社會的興味を缺いで居る(フ氏と反對)

(ハ)遊戯がない。

(ニ)話が部分的である

(ホ)粘土細工が足りない

三、モ氏は實際的生活を頻々喋々して居る。之は最であるがそれが巧に實現されて居ない。實際に見た人の説に依れば餘りに亂れて居て又社會的の團結が出来て居ない。

## 四、感覺の練習に就いて

感覺練習に對する學說の根據が古いと云ふは凡て感覺の練習には

A 説——放任説

B 説——一つの感覺をよく教育すれば他の感覺は自然によく成る、例へば右の手をよく練習せば右の手は自から發達する。

C 説——特別感覺練習説

一つは一つづゝ練習せねばならぬと色々あるか、モ氏の説はA説とB説の中間をうろついて居て、未だC説を知らぬきらひがある。

## 五、技術

モ氏は讀方書を早くから教へる様だが、それは無用である。米國流の進んだ考へでは、六歳前は少しも教へぬ。フ氏も亦同様の説である。否書き方丈は出来もしやう。然しそれはイタリー語なればこそ出来るのである。それは綴方法が極めて簡單なからである。

要するにモ氏の説を批評すればつまり五短三長

といつてよい。

### 五短

(一) 感覺よりしてすぐ名稱に導くことは間違つて居る。着想することは止めてほしい。古い心理學の弊にとらはれて居る。

(二) 米國デュエー氏の教育學說などに比すればモ氏のもののは極めて淺いものである。

デュエー氏の說には根底がある、即ち個人の發達と人類の發達とを同じものと視て居る處から說を發して居る。

(三) モ氏は成程幼稚園の事を科學的に研究したが尙前にも同様の研究した人がある。

(四) 貧民の方面に對して效能があるが一般に對してはいかゞはしい點がある。

(五) 讀方書方はイタリーでは出来るが他では出來ぬ。

### 三長

(一) イタリヤでカーサーバンピオンを建てたこ

とは此の人の功ある處である。

(二) 科學的にした處は感心である。

(三) 自由を實際に應用し様とした處は偉い處である。

それにつき又米國ホルム氏の批評が面白い、それは千九百十二年に出た *montessori method* といふ書物の序文を書いて居るが、その内に次の様なことをいつて居る。曰はく總じて *Originality* が少くない。然し彼を評するに三つの言葉がある。

イ 顯著なること。

ロ 目新らしきこと。

ハ 要用なること。

斯く一抑一揚して、終りにモ氏とマ氏との比較がしてある。

一、子供の活動、自由といつて居るのは二つながら一所のことである。

### 二、感覺練習

マ氏の恩物は思想が廣大で獨創的である。

モ氏のそれは卑近で實際的である。

三、體育はフ氏は團樂的遊戯に重きを置くが、モ氏は身體の一つ一つを練習する。

#### 四、主義

フ氏——符號

モ氏——實際

此處は家庭の關係による

要するにモ氏は自由を無限に用ひ過ぎる様な傾がある。而して技術を重んずるのはつまり貧民のことと考へて居る爲めである。そこで

(一)幼稚園關係者の殊に考へて居ることは子供の自由といふことは最も大切なことであるけれども然しその自由は放任といふことゝは全く異つて居る制限のある自由であるといふことを忘れてはならぬ。

(二)感覺練習のみに重きを置いてはいけぬ。

徒らに妄想的練習法は止めねばならぬ。

讀方書方算術の如きは米國に於てはいらぬ。

(三)幼稚園の保育を三箇年間にするとしたら、一

年の者にはモ氏流でやり、二年のものにはフ氏流にし、更に三年のものには便宜上モ氏の後の方法を用ひたら如何のものであらうか。云々。

(文責在筆者……神戸幼稚園志賀未子)

日ながとこども

まだ、小鳥が、楢に遊んでゐるのに、

私は寢床に入らねばならない。

まだ、大人が、日向の街を歩いてゐるのに、

私は寢床に入らねばならない。

まだ空は青い、日は暮れない——

私は、もつと／＼遊びたいのに、

私は寢床に入らねばならない。

(——ステイアンソン——)